

令和7年度第2回小牧市夢にチャレンジ助成金審査委員会  
議事要旨

《日 時》	令和7年10月24日（金） 15時15分～16時30分
《場 所》	小牧市役所301会議室
《議 題》	<p>(1) 小牧市夢にチャレンジ助成金の制度改正について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・応募の対象に中学生を追加</li><li>・中学生の応募に係る審査に高校生サポート審査員を追加</li><li>・中学生による「夢にチャレンジ発表会」の廃止</li><li>・募集時期・回数の変更</li></ul> <p>(2) 令和7年度第3回小牧市夢にチャレンジ助成金募集要項について</p> <p>(3) その他</p>
《出席者》	委 員：多川委員、瀬戸委員、西尾委員、川尻委員、小川委員 事務局：野田こども未来部次長、若林青少年育成係長、岡野 オブザーバー：采女学校教育課主幹、松浦学校教育課主幹、瀬尾学校教育課主幹
《傍聴者》	なし
《会議経過》	以下のとおり

## 1 あいさつ

〔委員長〕

通常は2月まで集まることがないですが、今回は中学生を夢にチャレンジ助成金事業本体の対象に加えるよう制度改正を考えているというふうに聞いています。

過去の資料を見返したときに、令和2年度に中学生の夢にチャレンジ発表会をすることを決めた検討の時と比べるとかなりスパンも短いし、実施までも急いで決断をしていかなければいけないというふうに感じています。

それだけ市の意向や思いがあるのだと察します。その思いやねらいが、経緯を含めて説明していただけると思いますが、それをお伺いして、ねらいや思いがきちんと反映される事業になるように議論していく必要があるのではないかというふうに思いながら事前に資料を見させていただきました。

忌憚のないご意見を頂戴して、夢にチャレンジ助成金という事業がより小牧市のことともたちにとって、夢を与えるきっかけの1つになる事業にしていけたらよいと思っております。

## 2 議題（1）小牧市夢にチャレンジ助成金の制度改正について

○事務局より説明。

- ・応募の対象に中学生を追加
- ・中学生の応募に係る審査に高校生サポート審査員を追加
- ・中学生による「夢にチャレンジ発表会」の廃止
- ・募集時期・回数の変更

○質疑応答、意見等

## ○応募の対象に中学生を追加することについて

〔委員長〕

令和2年度に制度変更した際に、中学生も夢にチャレンジ助成金事業の対象にするという案もあったが、その時は中学生については夢にチャレンジ発表会を創設するという形となった。今回中学生を対象とすることで課題となりそうな事柄はないのか。

→令和2年度については、中学生に助成金を支給して活動するということはどうかという意見が出た。また、助成金額を30万円より少なくする案もあったが、金銭を渡すよりも、まずはその夢を考える機会を与えることが必要であるという議論があり、発表会という形をとった。

〔委員長〕

当時の資料を見ると、年齢が低くなるほど支援が必要になる点が最も懸念されている。十分なサポートがなければ応募自体が減ってしまうおそれがあり、今回の改正が多くの応募を得ることを目的としているなら、この問題は避けて通れない。

今年度から新たにこまき「夢☆チャレンジ」科が始まったということで教育現場と有機的に連携できれば、それが延長線上の選択肢になり得、応募数は増えると思うが、そのための仕組みが的確に設計され、運用されるかどうかが重要となる。また、学校との連携も大切になる。市はどう考えているのか。

→今回対象を中学生に広げるにあたりモデルにした自治体の取り組みでは、周りの人がサポートする仕組みであったので、周りのサポートはある程度必要になると想っている。以前はなかったが、今年度からこまき「夢☆チャレンジ」科が始まり学校でも探究活動が行われている。今回追加される中学生の主な活動内容はその探究活動の延長であるため、学校の先生などのサポートを得て行うことが可能と考える。また本市にはこども未来館を中心に未来館センターが多数いるため、その企業や団体などの周りのサポートが必要であれば、協力してもらうことについては考えていきたい。

〔西尾委員〕

こまき「夢☆チャレンジ」科の取組みを見ていると、こどもたちはいろいろなことを考えて活動している。想像していたよりも活動できていると感じているが、初めての取組みなので学校現場としてもわからないこともある。この助成金にすぐに申請する生徒ができるかはわからないが、数年先には応募があるかもしれない少し時間がかかるかもしれない。

〔瀬瀬委員〕

夢☆チャレンジ科からの連動がすぐにできないとなると近いところだと、この先生にスポーツを習いたいとか、そういうものは応募対象となるのか。謝礼は対象経費になるのか。

→今の要綱であれば、提案者が自ら企画・実施する活動であれば謝礼も対象となる。企画した活動が対象となるのか、対象外となるのか、応募者にわかりやすく伝わりやすくする必要がある。

〔委員長〕

謝礼の対象や30万円フルに使わない少額のちょっとしたチャレンジなど、チャレンジするのに必要となることが伝わるような募集の形とか申請書の形になっていないと、中学生が見たときにこの募集要項だけでは理解が難しいので、チラシはわかりやすいものがよい。特に対象経費について誤解のないようなチラシにしたほうがよいと思う。

→このような活動であれば対象、その中の対象となる費用というものを、現在載せているが、経常的な習い事も月謝みたいなものであれば、夢チャレンジ助成金の趣旨としては、自ら企画して目指すチャレンジというところがあるので、例えば、英語の先生になりたいから英語塾に行くということも想定はされなくはないが、経常的な月謝であれば対象でないということを明確に示していく必要がある。中学生にわかりやすい形で周知を行いたい。

○中学生の応募にかかる審査に高校生サポート審査員を追加することについて

〔委員長〕

高校生の審査員としての参加についても確認しておきたい。審査員の立場で参加してもらうという意図はあるのか。そうではない形もあり得るのか。

→高校生にプレゼンを聞いてもらい、率直な意見や肯定するのが高校生向けに実施している「JUMP OUT ! project」で、やりたいことを1年通してやっている。こうした活動をしている人の経験を活かして、自分だったら過去このようなことをやったとか、近い年代としてのアドバイスをし、そのやりとりを大人は脇で見てもらい、それも大人の審査に含めるような形を想定している。

〔委員長〕

審査するというスタンスで高校生が意見を言うのと、中学生の発表にアドバイスをするという立場で意見を言うのとでは、高校生の受け取り方も違う。「JUMP OUT ! project」の参加者は審査と言われば、もしかしたら厳しいコメントとかもできるような人たちがたくさんいるのではないか。

そうではなくてやはり中学生のチャレンジを形にするため、実現するためのサポートというスタンスで、審査をする大人と発表する中学生という立場がいいのであれば、高校生はその横にいるというような枠組みにした方がよいのではないか。

→「JUMP OUT ! project」については5月から始まって、12月まで約半年間かけて行っている。助成金の公開プレゼンテーションが行われる年に「JUMP OUT ! project」の活動をしている高校生に入ってもらうのか、前年に一旦活動が

終わった方に来てもらうのか、どのような形でサポートしてもらうと一番いいのかを含めて、初めての取組みなのでいろいろ試しながら何年か後にいい形になればいいなというように考えている。

「JUMP OUT ! project」は高校生の社会参画事業として今年度から始まったもので、基本的には様々な提案に対し、否定しないという大前提で活動しているので、アドバイザー的な関わり方をしてもらい、大人の審査員が高校生のアドバイスを尊重する形で審査するとよいと考えている。

〔委員長〕

今までの審査会では落とすことはほとんどなかったと思う。予算に限りがある中、審査が難しくなるのでは。応募が多くなった場合の審査について考えていかなくてはならない。

→応募状況を見ながら、検討していきたい。

〔纈纈委員〕

高校生のサポートをお願いするのであれば、プレゼンテーションの場ではなく、事前に何回かサポート期間を設けると中学生も案を練りやすいし、別の視点も感じてくれると思うがどうか。

→「JUMP OUT ! project」の活動自体もなかなか学校活動が忙しいということは聞いている。中学生については、学校の授業の中で探究してきたことをもっと深堀りするものであり、中学校でのサポートもあるので高校生にサポートしてもらうことは想定してなかった。時間的な問題が解決すれば、より良いかとは思う。

〔委員長〕

中学生の夢にチャレンジ発表会についてはこども政策課にいる青少年育成指導員（元教員）に事前打ち合わせの際にサポートいただいているという認識があるので、せめて発表の前に高校生とそのやりとりができればより良いと思っている。しかし、「JUMP OUT ! project」の活動自体も、12月が最後となっている。毎月1回あって、そこに来るだけでも大変だと想像がつくので、そちらのスケジュールに合わせてできるといいと思いますし、高校生やいろんな地域の方がサポートして、中学生の夢が形になっていくというのはもちろん望ましい。ただ、夢にチャレンジ助成金に応募するにあたってのアドバイスをくれる人はいた方がいいので、事業の中でも中学生とやりとりできるときがあったほうがいいと思う。今回すぐにということはできないとは思うが、模索はしていく必要があると思う。

→現在高校生以上の助成金でも相談があればプレゼンの資料や実績報告など、多く調整しながら行っている面もあるので、中学生であれば発表会もなくなる想定であるので、高校生が難しかったとしても例えば青少年育成指導員に事前にお話いただきたり、アドバイスがもらえるよう、相談する機会を設けることも検討していきたい。

### [委員長]

高校生は年齢的にも近くて話もしやすいと思う。直接会うことが難しくてもオンラインなどやり方はいろいろあるかと思うので、何らかの形でアドバイスをもらえるといいと思う。今後の検討課題ということにしてもらえば。

## ○中学生による「夢にチャレンジ発表会」の廃止について

### [委員長]

夢にチャレンジ発表会を廃止するということで、例えば、今回は夢にチャレンジ助成金で中学生が対象になるのであれば、例えば小学校5、6年生対象の発表会にすることも考えられなくはないがその点を検討したのか。

→今回中学生に広げるという検討はしたが、小学生まで発表会を広げるという検討はしていない。いまのご意見を聞いてそれも検討が必要なのかと思うが、教育の現場として、小学4年生まで広げることについては、難しいのではないかと思う。小学3年生から総合的な学習の時間が始まり、社会科と総合的な所を絡めたり、社会と総合的な学習の時間といった段階を越えて、4年生の段階でテーマ探究をやるが、そもそも課題の持ち方や問い合わせの立て方を、先生と一緒にやっていくような状況である。こまき「夢☆チャレンジ」科が始まったばかりなので、小学校5、6年生になったときにどの程度の発表ができるのかと思う。例えばそれが校内の発表ではなく、外での発表となると、当然発表する子ども達の準備だとか、保護者、それに関わる教員も含めたパートナーの力も低学年になればなるほど、必要になると思う。どこまでのレベルで、どこまで応援していくのかというそもそもの趣旨に小学生たちが答えられるかというところだと思います。当然学校の中では小学校の1年生でも2年生でも発表会があって、それから3年生4年生5年生6年生の発達段階に合わせた発表をしておりますので、そういう意味での発表会は当然できると思う。しかしながら、夢にチャレンジ助成金の制度とはちょっと違うかもしれません、現段階では、その趣旨に沿う発表をどこまでできるかというのは未知数であると感じている。

## ○募集時期・回数の変更について

制度が始まったころは年度内に完結するものの募集であった。特に大学生は春休みなどが活動しやすいのではないか、年度をまたいだ活動も認められないかという議論があり、対象を広げましたがその後も年度内の活動ということが多かったので、今回中学生も対象とするということで応募も増えるだろうと想定しており、一旦年度内2回募集に変更しようとするものです。

### [委員長]

今までの議論からいくと応募が少なかったので、大学生とか高校生をイメージすれば春休みは活動がやりやすいだろうということはずっと議論に出ていて、令和3年度によくやく年度を跨いだ予算の執行ができる形に変わったという経緯があった。

[瀬織委員]

こまき「夢☆チャレンジ」科には中学校1年生から3年生までずっと同じテーマを追い続けているのかそれとも1年区切りでのテーマを変えていくのか。

→こまき「夢☆チャレンジ」科はこども達の興味や関心に基づいて課題を設定して行う活動となっており、短期的に活動しながらいろいろ調べたり、情報を整理したりして、行っていく中でまた新たに見つけた課題について、また向かっていくものであるので、1年単位でワンサイクルとかではなく、サイクルのまわし方はこどもによって変わるところがあるので、ざっくりと1年で、中学校1年生で1つとか、3年間で1つということはないかと思う。

[西尾委員]

高校生や大学生は年度をまたいでもよいが、中学生は年度でひと区切りするのが良い。生徒会活動などをしたときに、保護者が金銭の管理をするのか。

→助成金の振込先については、生徒会活動等チャレンジコースについては学校を、MY 探究チャレンジコースについては保護者を想定している。

[委員長]

中学生と高校生以上の募集回数を分けるのはいいのかについてはわからない。ただ応募の増加が予想できるからといって募集回数を今すぐに減らすのは早いと思う。中学生の応募もまだ今年度、どれぐらいあるかわからないので、もう少し様子を見て、もし夢にチャレンジ助成金自体が高校生大学生よりも中学生よりの事業になっていくのであれば、当然年度単位でよいし、高校生や大学生もということであれば、春休みの方が活動しやすい。それなら募集回数は現行のままでよいのではないか。

→募集回数をわけるのは好ましくないので、現行のままで支障ない。中学生の応募状況を見て、今度検討していきたい。

[委員長]

応募の対象に中学生を追加する。中学生の応募に係る審査にはアドバイザーとして高校生審査員を追加する。中学生による「夢にチャレンジ発表会」は廃止する。募集時期・回数は現行通りでよろしいでしょうか。 ⇒委員承認

議題（2）令和7年度第3回小牧市夢にチャレンジ助成金要綱について、事務局説明

[瀬織委員]

必要書類の個人の場合について、在学証明書が必要となるのは「市外在住で、かつ、市内に所在する中学校等に在籍している場合に限る」とあるが、市内に住んでいて私立中学校に通学している場合の想定をしているのか。

→対象となる。自ら企画した活動について、市内在住のため、対象になる。

〔委員長〕

市外の私立の中学校へ行かれている場合、MY 探究チャレンジコースという名称ではなじみがないと思うが説明なしで通じるのか。

→MY 探究チャレンジコースという名称ではあるが、MY 探究に設定していないものも対象となるので、「探究コースとは、個人で行う探究的なチャレンジであり、提案者が自ら考え、企画した活動」というような注意書きをしていく。

〔委員長〕

募集期間の時間が午前 9 時から午後 4 時までとなったのはなぜか。  
→11 月から市役所の開庁時間が変更となったため。

〔委員長〕

これまで周知の方法はどうしていたのか。これから中学校へはどうするのか。

→広報やホームページ、SNS などの周知、近隣の高校などへ郵送するという形をとっていたので高校以上については、特段変わる予定はない。中学生の夢にチャレンジ発表会については全員にチラシを配布するという形をとっていたが、全員に配布しても伝わりづらいところもあるかと思うので、例えばクラスに 1 枚配布したり、探究活動の方は先生が中心にやっていただけるので、先生からこういったことがあると直接言ってもらった方が、より伝わるのではないかと考えているので、また後日校長会議で相談という形になるかと思います。

〔纏纏委員〕

クラスに 1 枚配布だと、保護者にはなかなか伝わらない。保護者の同意が必要となるため、totoru での配信なども含めて周知方法を検討してほしい。

〔委員長〕

一部修正していただく箇所はありますが、事務局の方で検討いただいて、第 3 回の募集をこのようない形で行うということでおよろしいでしょうか。⇒ 委員了承

### (3) その他について

今後の予定

- ・令和 7 年度第 3 回小牧市夢にチャレンジ助成金については 12 月 1 日より募集開始 2 月 21 日土曜日、公開プレゼンテーションを図書館にて開催。
- ・事務局より落合さんの活動報告について説明。